

- 第69回日本胸部外科学会定期学術集会... 1面
- 教授紹介、チーム医療、施設便り、女性医師の立場から 2～3面
- 第4回理事会ニュース
みんなでとろうIF 4～5面
- 総会案内、会員証と学術集会参加登録、ネクタイ販売、追悼、編集後記 6面

第69回 The 69th Annual Scientific Meeting of the Japanese Association for Thoracic Surgery 日本胸部外科学会定期学術集会開催に当たって

会長 三好 新一郎

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 呼吸器・乳腺内分泌外科学 教授

温故創新 Innovation & Improvement

第69回日本胸部外科学会定期学術集会を岡手で開催させていただくことになりました。岡山大学ではこれまでに第23回砂田輝武会長、第58回清水信義会長、第63回佐野俊二会長が開催されており、私で4人目となります。伝統ある本学術集会をお世話させていただく事は大変光栄なことであり、心より感謝申し上げます。

会期は2016年9月28日から10月1日の4日間で、ホテルグランヴィア岡山・岡山コンベンションセンター・ANAクラウンプラザホテル岡山の3会場で行います。各会場はJR岡山駅の改札口から徒歩で3分以内、会場間は5分以内の所に位置しています。雨が降っても傘なしで移動できます。しかし、会場が3カ所に分かれていることで少なからずご不便をおかけすると思っておりますが、ご容赦をお願いいたします。

私は1987年から1989年までの2年間、世界で最初に肺移植を成功させたJoel D Cooper先生の研究室に留学する機会を得ました。Cooper先生の肺移植の成功の鍵は、まさに古きを訪ねて新しきを創造しようとする姿勢であり、大変感銘を受けました。そこで、本会のメインテーマを“温故創新”、サブテーマをInnovation & Improvementとした次第です。ポスターは、このメインテーマをうけて、胸部外科学をリードしてきた数々の古き偉業を光り輝くメスに置き換え、若手医師に伝わっていく様子をイメージして作成されています。実は、ポスターの左側でメスを渡している手が私の手、右側でメスを受け取っている手が呼吸器外科を目指す教室員の手です。本学術集会が会員の皆様にとってInnovationやImprovementのきっかけとなれば幸甚でございます。

本学会は心臓・呼吸器・食道からなる総合学会であり、3分野間の連携と協力が重要であります。学術集会のプログラム作成に当たりましてはコアプログラム委員会を組織しました。委員会のメンバーは心臓外科の大血管が倉谷徹先生(阪大)、弁膜症が小林順二郎先生(国立循環器病センター)、虚血性が夜久均先生(京都府立)、先天性が佐野俊二先生(岡山)、呼吸器外科は私が担当、食道外科は北川雄光先生(慶応)、土岐祐一郎先生(阪大)です。メンバーの先生に各領域の全権を委ね、シンポジウム・パネルディスカッション・ワ

ークショップ・海外招請講演・ディベートなどを企画していただきました。これらのセッション数に関しては会員数を考慮し、心臓・呼吸器・食道が概ね4:2:1になるように配分しました。会長の私は呼吸器外科を専門としていますが、専門外の心臓血管外科、食道外科におきましても最新のテーマが選定されており、会員の皆様のご満足が得られるような企画になっているものと自負しております。

特別講演は、肺移植のパイオニアであり恩師のJD Cooper先生(Pennsylvania)、癌遺伝子研究の第一人者で阪大時代の同級生である中村祐輔先生(Chicago)、心臓外科領域における再生医療の先駆者で阪大第一外科の同窓である澤芳樹先生(阪大)に、若手外科へのメッセージとなるようなお話をお願いしました。

特別企画は、専門医制度委員会に“専門医制度と指導医講習について”、また、チーム医療推進委員会に“胸部外科領域におけるチーム医療の近未来”というテーマで解説をお願いしています。さらに昨年も取り上げられましたが、本年4月熊本地震が発生し医療従事者としての対応を迫られたことから、“災害時における経験の共有と学会の役割”を急遽追加しました。

海外からの招請者は特別講演のお二人のほか、心臓領域はYoshifumi Naka (Columbia)、Himanshu J. Patel (Michigan)、Martin Czerny (Freiburg)、Robert J. Klautz (Leiden)、Marc Ruel (Ottawa)、Ruediger S. Lange (German)、Song Wan (Hong Kong)、James S. Tweddell (Cincinnati)、Christian Pizarro (Alfred I. duPont)、V. Mohan Reddy (California)、John S. Ikonomidis (South Carolina)、Takushi Kohmoto (Wisconsin)、呼吸器領域はWalter Weder (Zurich)、Joseph S. Friedberg (Maryland)、Gail E. Darling (Toronto)、David Waller (Spire Leicester)、Nori-hisa Shigemura (Pittsburgh)、食道領域はLorenzo Ferri (McGill)、C.S. Pramesh (Tata) の先生方です。

2016年2月9日より4月26日まで演題を募集し、心臓関係881題、呼吸器関係385題、食道54題、その他12題、合計1365演題の応募をいただきました。多数

温故創新
INNOVATION & IMPROVEMENT

JATS 2016
第69回日本胸部外科学会定期学術集会
The 69th Annual Scientific Meeting of the Japanese Association for Thoracic Surgery

会期: 2016年9月28日(水)～10月1日(土)
会長: 三好 新一郎
会場: 岡山コンベンションセンター/ホテルグランヴィア岡山/ANAクラウンプラザホテル岡山
URL: <http://www2.convention.co.jp/69jats/>
演題募集期間: 2016年2月9日(火)～4月12日(火)

【事務局】
〒700-8558 岡山県岡山市北区船場町2-5-1
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科呼吸器・乳腺内分泌外科(第2外科)
TEL: 086-235-7265 FAX: 086-235-7269

【運営事務局】
日本コンベンションサービス株式会社 関西支社内
〒514-0042 大阪府中央区学橋1-4-7 京阪神ビル2階
TEL: 06-6221-5033 FAX: 06-6221-5038
E-mail: 09jats@convention.co.jp

の応募をいただき、誠に有難うございました。また、お忙しい中査読をお願いしました先生方には、この場をお借りして御礼を申し上げます。採択率は概ね60%前後になる予定です。

シンポ、パネル、ワークショップは可能な限り3日間に配置し、海外からの招請者にもディスカッションに参加していただけるよう、一部ではありますが日本語から英語への通訳も設置しました。また、一般口演演題から優秀な演題を選出しプレナリーセッションで発表していただけます。

Postgraduate courseは、心臓は例年通りBasicを前日に、Advanced courseを3日目に配置しました。呼吸器は例年通り前

日の開催ですが、3時間に延長しました。食道は参加者が多くなるように3日目の午後に移動しましたのでお間違いのないようお願いいたします。

今回の学術集会は日程がEACTS並びに日本移植学会と重なってしまいました。ご迷惑をおかけしますことをお詫び申し上げます。

さて、秋の岡山にはおいしい食べ物がいっぱいです。B級グルメも用意します。指導医の先生におかれましては、胸部外科専攻医はもちろんのこと、医学生や外科研修医を伴ってご参加ください。多数の先生がたの来岡を心よりお待ちしております。

三好 新一郎
(岡山大学呼吸器・乳腺内分泌外科)
大阪大学 1977年卒業

阪大第一外科入局、Toronto大学・Washington大学留学、和歌山県立医大、大阪大学、獨協医大を経て2009年より現職

趣味: テニス、剣道
好きな言葉: 我、事において後悔せず



新教授
紹介

京都府立医科大学より ご挨拶申し上げます

井上 匡美 京都府立医科大学呼吸器外科学 教授

平成27年7月1日付で京都府立医科大学呼吸器外科学の初代主任教授に就任しております。当大学は明治5年京都療病院として、ドイツから招聘されたJunker von Langeeggによる栗田口青蓮院での診療と解剖学の講義がその始まりとされています。140年の歴史を誇る国内で最も古い医科大学のひとつで、京都に西洋医学の病院を設立したいという京都府民の寄付をもとに設立された府民のための大学と病院として歩み始めました。明治12年には医学校が併設され、京都における本格的な近代病院としての歴史を刻んできました。大学病院は大学医学部の研修教育施設として併設されることが一般的であるのに対して、当大学では病院で働く医師を教育するために学校が作られ、患者本位の医療を歩んできた歴史があります。また、呼吸器外科分野の歴史としては、大正5年、第17回日本外科学会で本学出身の尾見薫が宿題報告「肺臓外科」を担当し開胸時肺虚脱を防止する異圧装置について発表しその黎明期に貢献していました。

近年、外科領域では臓器別講座編成と専門分化が進み、病院としてはわかりや

すい診療体制を患者さんに提供できるようになってきましたが、一方で外科医の修練という視点からは専門分野に特化しすぎることにより知識や技術の視野狭窄に陥りかねません。日本胸部外科学会は心臓血管外科と食道外科に呼吸器外科を合わせた3分野胸部領域外科が集う学会であり、拡大手術や呼吸循環周術期管理、腫瘍学研究などに関する貴重な科学的情報共有の場です。私たちは、学術活動が単なる小手先の技術論や研究のための研究にならないように、いかに安全確実にがんを根治せしめるかということを学問の正中線に据えて進路をとっていかねばなりません。



井上 匡美

所属施設：京都府立医科大学呼吸器外科学
卒業大学：大阪大学

経歴：

1990年7月 大阪大学 第一外科 研修医
1991年7月 社会保険紀南総合病院 外科
1993年7月 社会保険紀南総合病院 心臓血管外科
1994年4月 大阪大学 臓器移植学 大学院生
1998年4月 大阪府立羽曳野病院 呼吸器外科
2000年6月 ドイツ・フンボルト財団奨学研究員としてヴルツブルグ大学にて胸腺腫瘍の分子病理学的研究
2002年4月 国立療養所刀根山病院 呼吸器外科
2004年1月 大阪大学 心臓血管・呼吸器外科学、助手
2007年4月 大阪大学 呼吸器外科学、助教

2008年1月 大阪大学 呼吸器外科学、講師
2014年3月 大阪大学 呼吸器外科学、准教授
2015年7月 京都府立医科大学呼吸器外科学 教授

専門医・認定医：

日本外科学会指導医、外科専門医
日本胸部外科学会認定医
日本呼吸器外科学会指導医、呼吸器外科専門医
日本移植学会移植認定医
日本がん認定医機構がん治療認定医
日本呼吸器学会呼吸器専門医
麻酔科標榜医

趣味：剣道、釣り
好きな言葉：「成り行きを決然と生きる」

現在、がん死亡原因第一位の肺がんは社会の高齢化とともにいまだに増加しています。我々は、早期がんには低侵襲な鏡視下手術と肺容量温存手術、局所進行がんには拡大切除で根治を目指すという個別化された外科医療を提供すべく、少人数の医局ながら日々の実地診療に取り組んでいます。肺がんに対する薬物療法や放射線治療の進歩は目覚ましく、進行・再発肺がんに対する手術適応は、今後逆に拡大していく可能性があります。集学的治療が基本である肺がん診療においては、呼吸器内科や放射線治療科との連携の重要性はいうまでもありません。このような中で、我々は京都府を中心に位置する関連病院10施設とともに、出身大学や男女を問わずやる気のある若手外科医に広く修練の場を提供し、患者に寄り添う責任感と、他科・他職種との連携に必要な協調性を持ちあわせ、現行のコ



ンセンサスやガイドラインを知識として持ちつつもこれにとらわれず自ら考える呼吸器外科医師の後進育成を目指して参ります。今後ともご指導・ご支援のほど、どうかよろしくお願い申し上げます。

チーム医療推進委員会特別企画

『胸部外科領域におけるチーム医療の近未来』

司会：坂本喜三郎 (静岡県立こども病院心臓血管外科) 益田 宗孝 (横浜市立大学外科治療学)

学術集会1日目

2016

9/29 (木)

10:15~11:45

本企画の背景とねらい：看護師の役割拡大・中間職種のチーム医療への導入は患者も含め四方八方 Win-Win-Win

疾病構造・人口年齢構成の変化、医療の高度・複雑化、厳しい国家経済状況など、我々胸部外科医を取り巻く環境はかつてない速さで急激に変化しつつあります。こうした変化に対応すべく地域医療構想を中心とした医療提供体制(場)の見直し、医療従事者の需給の検討、新専門医制度を中心とした(人)の見直しが急ピッチで進められていますが、関係者の様々な調整が必要で不透明感がぬぐいがたく近未来を見通しにくい状況にあります。

このような状況下、多職種によるチーム医療が重要な急性期医療の現場では、各医療職が専門性に基づきそれぞれのコア業務に専念できるように役割の見直し、拡大を進め、生産性を向上させる事が重要かつ喫緊の課題です。

平成26年の法改正を受け平成27年10月1日に「特定行為に係る看護師の指定研修制度」が施行され、医師と看護師の間の役割の見直しに必要な「法に基づいた教育システム」が整いました。本企画では、学会や職能団体の認定資格や、当

該病院以外に広がりを持ちにくい院内研修制度などではなく大学院での研修を修了した看護師の胸部外科関連領域における実働の状況、即ち、お互いの利害が衝突するようなものではなく、医療の質という面でも患者も含めWin-Winの関係でチームの生産性が向上するという事を共有し、その普及、発展、さらには次なるステップを踏み出すための課題などを皆さんと共に考えたいと思います。奮ってご参加ください。

基調講演：チーム医療の近未来：スキルミクス(医行為の分散)への挑戦と実践

矢崎 義雄 (国際医療福祉大学 総長)

平成19年に国立病院機構の初代理事長に就任された矢崎先生は矢継ぎ早に様々な改革に取り組みされました。その中で民間の病院に先駆けて平成22年4月から開始されたのが東京医療保健大学と連携した特定行為ができる看護師の養成でした。急性期病院の危機を乗り越えるためには、医師不足問題の解決、病院・医療提供者の生産性の向上や患者中心のよりよい医療実現に向けて、医療職種間の業務の相互乗り入れ、協働スキルミクスが必須と考えられたと述べられています(週刊医学界新聞2819号2009年2月23日)。医師と看護師のスキルミクスの分野でフロントランナーとしてリードされてきた矢崎先生に基調講演をいただきます。

情報共有セッション：先進施設の試行錯誤からチーム医療推進のコツを盗む

1)『周麻酔期看護師の役割』

大須賀明里 (横浜市立大学附属市民総合医療センター手術室 周麻酔期看護師)

2)『心臓血管外科チーム医療における診療看護師(JNP)の活動』

深井 照美 (大阪医療センター統括診療部チーム医療推進室 診療看護師)

3)『診療看護師(FNP)の心臓血管外科における役割』

谷田 真一 (藤田保健衛生大学病院 中央診療部FNP室(診療看護師) 心臓血管外科)

聖路加国際大学、東京医療保健大学、藤田保健衛生大学の大学院で医学的知識を学び、実践的修練を受け、さらに病院での卒業研修修了後に現場で活躍されている3人の看護師の方に現場の状況(業務内容、処遇、所属、患者や

他の医療職との関係や評価など)を語っていただきます。質疑・ディスカッションを経てこの制度が会員の皆さんにとってより身近なものとなり、全国津々浦々の病院に広がっていくことを期待しています。

特別発言

富永 隆治 (福岡和白病院 院長)

外科学会の外科医労働環境改善委員会委員長、厚生労働

科学研究田林班「新しいチーム医療体制確立のためのメディカルスタッフの現状と連携に関する包括的調査研究」班員として長年この問題に関わって来た立場から特別発言をいただきます。

施設便り

公益財団法人
心臓血管研究所附属病院 心臓血管外科
関 雅浩



当院は昭和34年に日本初の循環器系疾患の研究機関として設立された由緒ある病院です。平成23年に東京は西麻布、六本木ヒルズへ徒歩1分という好立地に移転し、平成25年に公益財団法人の認可を受けました。現在「診療」、「教育」、「研究」の3本柱を使命として、高いレベルの循環器診療、人材育成を行なっております。研究所というフレーズから通常診療は行なっているの？研究所が併設されているの？等の質問を受けることが多いのですが、当院は循環器に特化した医療を提供する“病院”です。心臓血管外科、循環器内科の2科で診療を行なっておりますが、総合病院ではないため、消

化器疾患、神経疾患等のある患者様は、近隣病院との連携を図り対応しております。病床数74床（ICU6床）と小規模な単科病院という苦労はありますが、医師、看護師は勿論の事、臨床工学技師、理学療法士、放射線技師、薬剤師、医療事務に至るまで職種間の垣根なく連携を図れるという点では非常に働きやすい環境です。「研究」に関しては当院独自の心研データベースを長年蓄積し、世界レベルの研究成果を継続的に発信し続けております。さて、当院の心臓血管外科は、平成14年から25年の間、田邊 大明先生が長年に渡り尽力され、平成17年からは須磨久善先生をスーパーバイザーとして迎え

発展してまいりました。また、平成25年から27年の間は、高梨 秀一郎先生にアドバイザーとして就任して頂く等、当院外科は名立たる心臓外科医の粉骨砕身の元に築かれた歴史があります。平成25年12月からは國原 孝部長をドイツより迎え、新体制として再スタートしております。平成26年度からは急性大動脈スーパーネットワーク重点病院に復帰し、急性期疾患も積極的に受け入れることが可能となりました。末梢血管疾患、ステントグラフト手術から開心術まで、成人心臓血管外科領域を広くカバーしており、特色として大動脈弁輪拡大、大動脈弁逆流に対して積極的に大動脈弁形成術を行なっている点があげられます。Remodeling手術をeyeball plastyからlogical に改善したSaarland UniversityのH.J. Schäfers教授の元で長年働かれた國原部長の飽くなき探究は、帰国後も留まることはありません。多施設レジストリーの発足、科研費を取得してTWINS（東



京女子医科大学、早稲田大学の共同研究施設)における豚弁モデルを用いた実験 (Remodeling vs. Reimplantationの検討)を行なう等、日本人に最適なRemodeling手術の探求を継続しております。定例手術のみならず、急性大動脈解離等の緊急手術においても、大動脈弁温存を積極的に行なっており、これまで良好な成績を収めております。これからも本邦における循環器専門病院の良きロールモデルとなることが我々の使命であり、今後も努力を続けてまいります。

女性医師の立場から

女性呼吸器外科医として

自分らしく呼吸器外科医としての道を歩み続けられるよう

私は、かかあ天下とからっ風が名物とされる群馬県で、旅館経営をする両親のもとに生まれました。群馬県、中でも私の故郷伊香保町の女性の就業率は全国平均と比べ高いとされますが、さらに、女将として朝早くから夜遅くまで働く母の姿を間近に見て育ちました。女性が働くことは当たり前だと考えていた私でしたが、それでも女性が外科医として働き続けられるのか不安な思いで女子医大第一外科に入局しました。そこには不安を吹き飛ばすような凄先輩女性医師もおり、忙しいながらも充実した

研修生活を送ることができました。卒後6年目、都立病院への出向が決まった矢先に妊娠がわかりました。出向予定の病院は呼吸器外科医が3人で、多くの手術を行う忙しい病院です。3人のうちの1人として役に立てるのか、迷惑ではないかと心配しましたが、産休時期の応援医師派遣など医局のサポートもあり、出向先の部長、先輩医師は私を快く受け入れてくれました。その後も医局が私を1人の医局員・呼吸器外科医として扱ってくれたことを、今は本当にありがたく思っています。娘が中学3年生となった現在、

医局や出向先、家族の理解・配慮・支援のおかげで私は呼吸器外科医を継続し、多くの尊敬できる先生方にめぐり逢い、自分なりの成長をすることができています。キャリアパスは従来いわれていた上るか下るかしかない狭い梯子のような道ではなく、自由な回り道がありながらも上を目指せるジャングルジムのような道である、とはFacebookのCOOシェリル・サンドバーグが著書Lean inの中で引用

した、Fortune誌のペティ・セラーズの言葉です。どの道を正解とするのではなく、自分らしく呼吸器外科医としての道を歩み続けられるよう、また時に若い先生にとってのロールモデルとなれるよう、がんばっていきたいと思います。20年目とはいえジャングルジムの道を通途中の私は、まだまだ一人前には程遠い状態です。今後ともご指導のほどよろしくお願ひ申し上げます。



松本 卓子
(埼玉県済生会栗橋病院)
卒業大学：東京女子医科大学
経歴：1996年東京女子医科大学第一外科入局
国立療養所宇都宮病院、済生会栗橋病院、聖隷沼津病院、総合南東北病院、都立府中病院への出向を経て
2004年8月より済生会栗橋病院に出向
2015年4月より呼吸器外科担当部長 現在に至る
趣味：ミュージカル鑑賞
好きな言葉：みんなが違ってみんないい

呼吸器外科の道に進む女性が
増えていることを実感

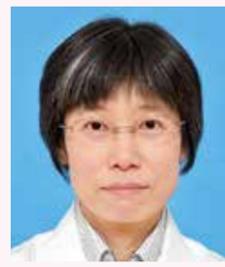
しなやかに乗り越えて、辞めずに呼吸器外科を続けて欲しい

皆さま、こんにちは。獨協医科大学の前田寿美子です。ある日突然、胸部外科学会からニュースレターへの投稿依頼が舞い込みました。与えられたテーマは「女性医師の立場から」。私が最も苦手とするテーマです。そもそも女性医師と一言で括られても、均一な集団ではありません。果たして何を書くべきかと途方に暮れましたが、これも修行と思ってお受けしました。私が医師になった頃は、呼吸器外科学会総会に行っても二日間遭遇する女性の医師は一人か二人。それが近頃では、一会場に少なくとも五人は見かけるようになりました。約二十年かかりました

が、確実に呼吸器外科の道に進む女性が増えていることを実感します。せっかく増えた仲間には、この先のライフイベントを、ある時はギアチェンジ、ある時はちょっと回り道してでもしなやかに乗り越えて、辞めずに呼吸器外科を続けて欲しいと願います。さて、我が身を振り返ると、これまで女性であることが選ばれる理由であったことは皆無でしたが、ここ数年、女性であるが故に選ばれたのであろう出来事がいくつかありました。胸部外科学会の推薦評議員に選任いただいたのも、その一つと思われます。理由はどうあれ、選任されたからには頂いた任務をしっかり務

めて参りたいと思いますし、そうすることが、女性医師への機会均等につながると信じています。苦手な話はこれにて終了。私はクレーブランド留学中にバードウォッチングの楽しさを知りました。双眼鏡さえあれば始められますし、仲間と一緒にでも一人でも楽しめます。耳と目の感度を最大限にあげて双眼鏡にお目当ての鳥を収めるに

は、集中力と忍耐力、反射神経が必要です。なんだかスポーツみたいですが、単純に、鳥たちの美しさや体いっぱいさえその姿に魅せられます。日本では竜飛岬、小笠原、根室沖、舩倉島などに探鳥に出かけました。さあ、次のお休みはどこで鳥みよう？どなたかご一緒しませんか？



前田 寿美子
(獨協医科大学 呼吸器外科学講座)
卒業大学：東北大学
簡単な経歴：
1995年4月 東北大学抗酸菌病研究所外科（現在の加齢医学研究所呼吸器外科学分野）入局
その後、仙台厚生病院、太田西ノ内病院、東北大学加齢医学研究所附属病院などで研修
2002年3月 東北大学大学院医学系研究科 修了
2002年9月-2004年8月 米国オハイオ州Case Western Reserve University留学
帰国後、金沢医科大学、宮城県立がんセンター、東北大学病院に勤務
2016年4月より現在の所属
趣味：バードウォッチング・文房具あつめ
好きな言葉：初志貫徹

1. 各種委員会報告及び協議事項

(1) 理事会

熊本地震に対する本学会対応、本学会計務調査結果、総合将来計画委員会を中心とした「拡大将来計画委員会」を新設し開催、呼吸器外科専門医の地方会クレジット単位の変更(0.25→0.5)、役員立候補の案内状を送送、理事会資料のペーパーレス化(今回から実施)が報告された。

協議事項

1) 名誉会員・特別会員推薦の件

規程に則り、名誉会員は坂田 隆造先生、許俊鋭先生、篠田 雅幸先生、富永 隆治先生、近藤 丘先生、大杉 治司先生、特別会員は高原 善治先生、川筋 道雄先生、末廣 茂文先生、齊藤 幸人先生、大貫 恭正先生とすることが承認された。また、特別会員は、規程外の方から申し出があり、検討の結果、条項に「施行細則第50条(3)前2号の基準にかかわらず、理事会において、特別会員候補者とすることがふさわしいと認められたこと」とあり、この「基準」を総務・渉外委員会にて策定する。なお、推薦状を提出いただくこととする。

2) 議事資料作成日程の件

議事資料作成日程案が提出され、承認された。

3) 「心臓組織用クリップ特定医療材料」の件
適正使用指針の件は、診療問題委員会に対応することが承認された。

4) NCDを代表する本会所属研究者の研究分担への依頼

昨年、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)に研究費の申請を行い、承認された事業「臨床研究等ICT基盤構築研究事業」、申請者は慶應義塾大学の宮田 裕章先生、研究開発課題「National Clinical Databaseに基づく新しいベンチマーキング体制の構築に関する研究-次世代型Evidence Based Medicineの基盤形式」は専門医認定機構との関係が深いテーマであり、本年度も継続して認められた。本会からは3名が研究開発分担者として参加している。具体的な内容 ①ICTを活用したエキスパート連携による新しいベンチマーキングシステムの開発 ②次世代型EBM診療サポートシステム構築について報告され、承認された。

5) 地方会のあり方について

各地方会の会員構成・会費等が報告された。

6) 役員任期について

本会理事の任期は他学会と比較して短く、一期2年で最長三期6年の改訂案が出され承認された。定款を改訂する。

(2) 正会員選出委員会

本年度の正会員申請者113名(心77名、肺33名、食・その他3名)の持ち回り審議を開催し、全員を承認、その結果を役員に連絡していることが報告された。

(3) 選挙管理委員会

委員会での持ち回り審議の結果が報告された。本理事会として、Webでの評議員選挙への移行が認められた。また、マーク条件を緩和する方向であったが、施行細則第38条の選挙区を「専門分野」と変更し、定員数を超えた選挙区だけの選挙とすれば、「90%以上」はそのまま残しておいても問題ないとの結論となった。また、Web上での評議員選挙への変更に伴う施行細則の改訂を行うことが承認された。

(4) 会誌編集委員会

報告事項

4月の編集委員会議事録、仮Impact Factor予測



値は6月1日付けで0.9882、論文投稿・掲載状況、Accept率、Acceptまでの平均所要期間、Online First掲載までの平均期間は11日、2015年掲載数はOriginal Article 45編、Case Report 38編、Invited Review Article投稿状況、評議員資格にGTCSへの投稿歴を含める件、Editorial Boardの表記整理、地方会及び学術集会でのIF獲得に向けての広報などが報告された。なお、シュプリンガー社から学会誌デジタル印刷化に伴い、従来、著者に請求されていたカラー印刷代が無料となることが報告された。

協議事項

1) 優秀論文

Original Article心臓血管外科20編中2編、呼吸器外科17編中1編が優秀論文として承認されたことが報告され、本理事会でも承認された。今秋の総会時に表彰式を行う。

Vol.63 No.5 Tomonobu Abe

Influence of the characteristics of Japanese patients on the long-term outcomes after aortic valve replacement: results of a microsimulation

Vol.63 No.6 Hiroshi Tsuneyoshi

The second best arterial graft to the left coronary system in off-pump bypass surgery: a propensity analysis of the radial artery with a proximal anastomosis to the ascending aorta versus the right internal thoracic artery

Vol.63 No.3 Toshihiko Sato

A simple risk scoring system for predicting acute exacerbation of interstitial pneumonia after pulmonary resection in lung cancer patients

2) Thomson Reuter社のメール配信サービス「WoSAC」

日本代理店から「WoSAC」(海外の著名な研究者5,000名にジャーナル等情報をメール一斉送信する。5000名1配信54万円)が説明され検討した。IFをとってからの方が有効との意見もあり継続審議とする。

(5) 総合将来計画委員会

拡大将来計画委員会のまとめが報告され、本理事会では地方会との連携について検討された。

地方会との連携について

胸部外科学会本体との統合(会費、会員の統合)は可能かどうか検討した。横井副理事長から、関西地方会の会員状況、会費納入状況が報告された。現状の関西地方会では会費納入率が低い等の財政的問題があるとの指摘があった。今回、地方会での発表が心臓及び呼吸器外科専門医申請クレジットとして認められたことを受け、全会員が地方会に参加する義務と権利があるという認識形成ができるように指向したいこと、またクレジットが付いたことを受け、本会と地方会の会費を統合し、学会本部ですべての地方会での財務管理を行うてはどうかとの提案が出された。各地方会の運営状況が報告された。その結果、関西を除く他4つの地方会では、現状の会費納入率等に問題はなく円滑に運営されており、関西地方会独自の問題もあるので、まずは関西地方会の中で議論していただくこととした。

報告事項

1) 国際化に向けた取り組み

若手外科医の短期海外留学援助のためのフェローシップ基金を設立、アジア・オセアニア

諸国の胸部外科医の学術集会への参加援助のためプログラム等の英語化の導入の検討

2) GTCSの充実

過去4年間の投稿歴を評議員資格に入れる件及び地方会への貢献度も入れて検討

3) 学術集会の運営方法

学術集会委員会との役割分担の明瞭化は必要である。運営・資金について学会主導の運営方法、研修医などの参加を容易にする方法などを検討する。

4) 新専門医制度への対応

学会としてどのように関与・対応していくか継続的検討が必要である。学会の存在意義と若い人の学会参加にも影響してくると思われる。

5) 評議員資格

評議員資格は必要か、「また学会として必要とする評議員とは」の議論が必要であり、総務・渉外委員会で検討する。併せて、選挙制度の改訂についても検討する。

6) 学会のidentity

学会の存在意義を再確認する必要がある。もともとの理念はホームページ上にあるが、本学会が目指すものは何か理念を考える必要がある。

(6) 学術委員会

1) 2014年学術調査結果

Annual Reportを作成中である。

2) 2015年学術調査について

(心臓分野)コンバーター確認が終了、6月下旬に検証、7月中旬に調査開始予定。(呼吸器分野)NCDを利用し4月に調査を開始、5月末で締め切り657件から報告があった。(食道分野)調査票を4月(九州地区は6月)に送付し、現在回収中。

3) 倫理面での問題について

1984年より学術調査を行っているが、これまで「倫理委員会」の承認を得ての調査は行っていない。NCDデータに関しては、「倫理委員会」の承認を得たものという解釈になるが、食道分野は、当面は従来通りの調査票を使って学術調査を行う予定であり、学術調査を「人を対象とした医学研究」とした場合、連結不能であるので指針の適応範囲外と解釈できるが、今後、倫理委員会でも倫理審査を受けるべきで、学会の倫理・安全管理委員会で検討する。

4) 2010年~2014年学術調査結果

5年毎の解析をスタッツコム社に依頼中。

5) プレスリリースについて

学術調査結果を毎年学術集会前に東京でプレスリリースする予定。

6) VATS手術件数について

VATS手術件数と比率が2013年に比べて大幅に増加していることがわかり、NCDからの自動計算システムではNCD登録項目の胸腔鏡手術「あり」の登録症例で、「肺全摘前に審査胸腔鏡を挿入した症例」「肺全摘時に胸腔鏡をライトガイドで挿入した症例」などが含まれていることがわかった。2014年と2015年のAnnual ReportにVATSは含まず、今後、VATSの定義について確認する。

7) NCD調査での呼吸器外科手術カウントについて

「肺癌」「縦隔手術」では、これまでの学術調査結果とあまり総数に変化はないが、NCDの「呼吸器外科手術」総数では5,000件~6,000件多

くなりこれまで把握していない施設での手術(おそらく美容外科、小児外科など)が入力されているのではないかと報告があった。

(7) 学術集会委員会

拡大将来計画委員会の際の学術集会委員会提言事項とこれに基づく「学術集会委員会のあり方、プログラム編成の関わり等について」持ち回り委員会を行った結果が報告された。

1) プログラム編成

総合将来計画委員会で学術集会の基本構想を提言し、学術集会委員会ではプログラム基本構想委員会を編成する。学会ごとには会長のアイデアが生かせるように、会長指名のプログラム委員会を構成する。委員会委員は、ある程度継続性を持って選出する。

2) プログラム基本構想委員会

3年単位の基本プログラム案を提案する。3分野の会員数に応じたテーマ数の決定を行うが、ゆるやかなガイドライン的なものを提案する。テーマ数は少ないかもしれないが、領域横断的なプログラム案を提案する。

3) プログラム検討事項

①若い外科医のために、プログラム委員会の中にU-40の委員を入れて、意見が反映するようにする。②指導医講習はネガティブな意見が多く、共通講習のみでよい。③JaSECT等の合同開催は考えられるが、コメディカルセッションには否定的である。④国際化への対応として、抄録はタイトルの英語名は記載義務化、採決された後は英語抄録を提出する。英語セッションは運営上厳しい。また、1部屋を通訳部屋にして招待の先生へ通訳し、討論に参加してもらう。この件は次回第70回から準備している。

4) 第69回学術集会(三好会長)

今回は心881題、肺385題、食54題、その他12題の演題応募があり、現在採択中である。Postgraduate Courseの心臓はBasic courseを前日の午後に、Advanced Courseを3日目に、呼吸器は前日の午後、食道は3日目の午後に開催。重症心不全外科研究会は中止、特別企画として胸部外科領域におけるチーム医療の近未来、専門医制度(指導医講習を含む)、災害時における経験の共有と学会の役割を予定していることなどが報告された。

審議事項

会長メダルについて

本年作成する会長メダル2個(第68回大北前会長、第69回三好会長)と外国人名誉会員メダル1個(Joel D. Cooper先生)を作成することが承認された。歴代会長引継メダルは名誉会員の故Key. JH先生からの贈呈記念メダルとする。

(8) 財務委員会

1) 税務調査結果

税務調査について報告書が提出され、結果は管理状況申し分なく追徴課税等無く問題なく終了したことが報告された。地方会会計に言及され、第168回関東甲信越地方会会計報告の提出依頼があり、了解を取り提出した。「関東は年3回学術集会を開催しており法人税・消費税の申告が必要であること。他地方会は全国に所在していることから国税局と協議していく方向」とのことが指摘され、本件は各地方会へ周知することとする。

(9) 倫理・安全管理委員会

1) 日本医療事故調査機構定時社員総会

医療事故調査制度の現状報告がなされ、医療安全分担金20万円について、本理事会でも承認された。

2) ポンプ不具合事例のHP掲載

日本血管外科学会医療安全委員長よりポンプ

不具合事例について会員周知の依頼があり、HomepageへPMDAへの報告書を掲載した。

3) 医療調査取り下げの件

第2回理事会で報告した「施設からの医療調査取り下げの件」について通知が正式文書にて届いたことが報告された。他学会が対応とのこと。

4) 演題募集及び論文提出の際の倫理に関する件

演題応募に際して、倫理委員会の承認が必須となっているが、本会では規定がない。内科系では先行して行われているようであり、倫理委員会を通ったものでないと応募できなくなる。外科系も追従せざるを得ないし、倫理委員会がない施設では、学会の倫理委員会に審査を依頼するようになるし、論文も同様である。本委員会が胸部外科としての叩き台を作成する。

(10) 専門医制度委員会

1) 心臓血管外科専門医認定機構報告

更新時に修練指導者が指導的助手で行った場合、2倍カウントする。先天性心疾患の施設(30例以上)については、新専門医制度が導入された時点で開始。認定登録医制度、再取得制度を導入予定。2017年よりOff-the job training30時間、体外循環経験5例を課し、満たしていない場合は、次の更新までに条件を整える。領域別講習のポイント付与について検討。循環器専門医とのダブルボードの可能性について検討。新しい基準でのコンバータシステムを開発中。サブ領域として日本専門医機構のヒアリングを受けた、ことなどが報告された。

2) 呼吸器外科専門医合同委員会報告

研修指導医の条件を日本専門医機構、他領域に合わせて更新歴のある呼吸器外科専門医とした。新規申請時の外科専門医申請時に使用した手術症例は、ある一定数は許容していく方向。研修基幹施設の手術症例数については新しい基幹施設として年間150例を想定、などが報告された。また、学術業績に関して地方会での発表を0.5単位として合計2単位まで認め、規則施行細則の変更について承認された。

3) 新専門医制度の動き

厚労省社会保障審議会医療部会が日本医師会、四病院団体協議会の懸念を受け「専門医養成のあり方に関する専門委員会」を設置し、委員長私案(専攻医が都市部に集中しないような仕組みを入れた上で、当面は、従来通り各学会が専門医養成プログラムに関し中心的な役割を担うこととし試行的に運用してはどうか、日本専門医機構の権限は強すぎる、として転換を求めるとし、領域別に都道府県の定数は過去三年間の採用実績の1.1~1.2倍を全国定数とし、都市部は1.0倍、地方は1.2倍程度)の提示があった。

(6月7日)日本医師会、四病院団体協議会が「新たな専門医の仕組みへの懸念について」と題する要望書(日本専門医機構のガバナンスに対する抜本的な見直し要求、新理事会のメンバー構成、基本診療領域プログラムに関しては2017年度からの開始を延期し現行の学会専門医の仕組みを維持すること)を日本専門医機構と基本領域学会に提出。ただし、新制度下で実施可能と判断する学会は開始可能であるが、問題解決されないまま拙速にスタートは問題。塩崎厚労大臣談話:日本医師会、四病院団体協議会の要望の趣旨は十分に理解できるとし、プロフェッショナルオートノミーの理念のもと、医療関係者、日本専門医機構、各学会がお互いの立場を越えて協力し合い、国民のニーズに答えることのできる医師養成に貢献することを求めた。

(6月9日)日本専門医機構:2017年度からの新専門医制度は同機構認定ではなく、学会認定で行う方針を決め、実施するかどうかは各学会に任せると発表。ただし、総合診療医は機構が行う。社会保障審議会医療部会:新専門医制度の延期を同部会で決定すべきという意見に対し、永井委員長はあくまでプロフェッショナルオートノミーで実施すべき、医療部会は立ち入らず、各学会に任せる。

(6月15日)日本医師会、日本医学会「新たな専門医の仕組み導入について」各領域理事長にいったん立ち止まって新たな検討の場における精査を踏まえて対応方針を判断するように求める。

(6月20日)日本内科学会:「7月末までに協議が進み、大丈夫と判断されれば新専門医制度を開始する。難しいとの判断となれば、従来の制度とする。試行の形では行わない。」とのコメントを出した。

6月22日開催の外科専門医制度委員会に際し、基本領域とサブ領域との連動型を主張して行き、その先が見える形で、自由度を上げたプログラムで移動を認めてほしい、ことを要望したい。胸部外科学会学術集会中の特別企画「専門医制度」について、検討した。これまでの経緯報告及び外科専門医との交渉等、報告すべきであり、専門医制度委員会企画する。

(11) 研究・教育委員会

1) サマースクール

かねてより周知の通り、呼吸器外科サマースクールは2016年7月9日(土)10日(日)に神戸医療機器開発センター(MEDDEC)・ニチイ学館ポートアイランドセンターにて開催。前回報告した日本肺癌学会に続き、日本呼吸器学会からも同額100万円の協賛を得たことが報告された。心臓血管外科サマースクールは2016年8月20日(土)21日(日)にテルモメディカルプラネックスにて開催。

2) Postgraduate Course

第69回日本胸部外科学会Postgraduate Courseでは座長1名の交代が、第24回日本血管外科学会教育セミナーでは全講師陣の最終決定が、第48回日本心臓血管外科学会卒後教育セミナーでは末梢血管分野講師1名の推薦がそれぞれあったことが報告された。

(12) 診療問題委員会

外保連による平成30年診療報酬改定に向けた要望項目アンケートを実施中、カテーテルヘパリンコーティング製品製造終了、ポルヒールに関し要望書を提出していたが、スプレーの互換性ができたとの報告があった。心臓組織用クリップの特定保険医療材料取載と左心耳閉鎖術の技術料の要望書を本会と日本心臓血管外科学会との連名で厚生労働大臣に提出した。その後、業者を通してガイドライン作成依頼があり、日本心臓血管外科学会では、ガイドライン作成を行わない方針になったが、本会では左心耳閉鎖術の技術料の設定ということで検討する。

(13) 総務・渉外委員会

第1回委員会を税理士陪席のもと開催しマイナンバー制度について検討したことが報告された。資料として、議事録および規程(個人番号制度実施に伴う対応)、「特定個人情報等の適正な取扱いに関する基本方針(案)」、「特定個人情報取扱規程(案)」が提出説明され、今後、これに基づき対応をしていくことが承認された。

(14) 広報(Hompage・Internet)委員会

第1回委員会を4月に開催し議事録が提出さ

れ報告された。プレスリリースは1年1回学術集会前に東京にて開催、Homepage担当者の割り振りと変更、Newsletter担当者の割り振りや新教授紹介等の新規記事掲載、最新Newsletter No.35案(専門医制度特集)が提出された。

(15) 臓器移植委員会

心臓移植関連学会協議会で、認定施設の追加や書類審査を行ったことが報告された。

(16) チーム医療推進委員会

胸部外科学会学術集会中の特別企画をチーム医療推進委員会で行う。9月29日午前中「胸部外科領域におけるチーム医療の近未来」を行う予定である。

(17) 国際委員会

1) 海外研修のフェロシップ基金の件

Medtoronic、また、AATSと交渉し日本Medtoronicが出資予定で施設はMedtoronic関連施設とし、1年に3~5名の3カ月滞在プログラムで大筋合意したことが説明された。エチコン、テルモ、CSLベリング、エドワーズ、SJM、日本ライフライン、TAVAR関係のクック、ゴア社に依頼予定であることが報告された。北米への派遣はメドトロニックの基金でAATSを通して行える見込みで、他企業からの寄付は欧州派遣に使用する予定である。アジアからのトラベルグラントについては学術集会会長と相談しながら進めること、アジアに中国を中心とした呼吸器外科専門の学会を作る動きがあることも報告された。

(18) COI委員会

前回理事会で承認された医学研究のCOI(利益相反)に関する指針に基づき、役員及び当該委員に利益相反自己申告書の提出を依頼する。

(19) 補助人工心臓治療関連学会協議会

5月に第1回協議会が開催され、実施医・実施施設認定状況、Excorの保険償還で逆ザヤになっている現状を受け要望書を提出予定、Heart Mate IIのDTの本格的治験が開始予定、J-MACS委員会をPMDAからVAD協議会に業務委託が報告された。

2. その他

(1) NCD社員総会

NCD社員総会が開催され、施設会費の順調納入、泌尿器学会が入社、脳神経外科学会の登録が2015年に初年度登録が行われたことが報告された。

(2) NCD運営委員会

1) 自施設データのダウンロードの件

自施設データのダウンロードを求める声が多いを受け、連結不可能匿名化(個人情報低減データ)して各施設にダウンロードを許可する制度を考慮中。各学会で検討要請あり。

2) 外保連試案にかかる調査依頼

次回30年度診療報酬改定に向けNCDデータを使用し「技術評価の適正化のための手術に関する調査」を行う予定。外保連試案とNCD術式(手術時間がわかる術式)の間で1対1対応しているリスト作成(1対多、多対1、術式名称の違いの把握)を各学会に依頼予定。

3) AMEDの事業の件

AMEDの事業で2億5千万円の予算を獲得した。事業は①電子カルテに連動する形でデータベース入力を行うシステムの開発 ②診療行為の費用対効果を見るためのシステムの開発 ③施設集約化などが地域医療に及ぼす影響の可視化であり、この予算を8か月で執行することが求められている。他にも同様の公募があるがほとんどが公募から1か月以内に応募提出となるが積極的に応募していく方針。

(3) NCDから依頼の件

NCD術式と外科専門医術式に関して、TAMI該当症例を日本外科学会に要望してほしい旨、NCDから連絡があり、心臓血管外科領域として要望した。また、追加NCD術式としてNCDに要望書を提出した。

(4) NCD臨床研究推進委員会報告

NCDデータを用いて学会横断的な臨床研究を行う場合、日本外科学会に申し入れることとなった。同委員会委員2名の推薦がある予定。

(5) 日本心臓血管外科手術データベース機構分担金

日本心臓血管外科手術データベース機構から、2015年度収支決算書及び2016年度予算書が提出された。2016年度学会分担金200万円は支払うことが承認された。

(6) 体外循環用小口径カニューレに関する件

本年2月末付けで3学会(本会、日本心臓血管外科学会、日本小児循環器学会)による「小径体外循環カニューレ安定供給に対する要望書」を提出し、その後の計画概要が報告された。

(7) 外保連分担金

外保連から、2015年度収支決算書及び2016年度予算書が提出された。2016年度学会分担金40万円は支払うことが承認された。

みんなでとろう インパクトファクター

GTCSインパクトファクター(IF)獲得の取り組み

2016年も勝負です!

General Thoracic and Cardiovascular Surgery (GTCS) は日本胸部外科学会、日本呼吸器外科学会のOfficial Journal、日本心臓血管外科学会のAffiliated Journalです

日本胸部外科学会
Webサイトに
お勧め論文を
掲載しています!



<http://www.jpats.org/>

会員各位

通常総会のご案内

通常総会を右記の通り開催いたします。ご出席の方は通常総会案内状を受けた会員に限ります。(別途往復葉書で会員へ発送いたします)

学術集会にご出席の方でも通常総会にご欠席又は未定の場合は、必ず捺印の上、委任状をお出しください。委任状は、議長以外の会員の方を代理人とする場合は、代理人の氏名をご記入下さい。代理人氏名記入のない委任状は、議長を代理人としたものとして取り扱います。

なお、昨年の評議員会速記録及び総会速記録は、本会ホームページ(会員専用)に掲載されており、議決を伴う事業報告及び収支決算報告および監事の選任については、評議員会・総会において満場一致にて議決されております。

特定非営利活動法人日本胸部外科学会 理事長 大北 裕
第69回日本胸部外科学会定期学術集会 会長 三好 新一郎

日時: 2016年9月29日(木) 13:00~13:50
会場: ホテルグランヴィア 岡山
フェニックス AB (第1会場) 4F
〒700-8515 岡山県岡山市駅元町1番5
TEL: 086-234-7000

付議事項

1. 事業報告承認の件
2. 決算報告承認の件
3. 定款・定款施行細則改訂の件
4. 役員選任の件
5. その他

*ご注意: 自然災害等の影響で不可避の問題が発生した場合は、開催についての対処を協議し、ホームページ等に掲載しますのでご注意ください。

会員情報の変更は9/19(月)までにお済ませください!



会員証と学術集会参加登録について

会員証を用いて本年も学術集会参加証の発行をいたします。必ず会場にお持ちください。現在お持ちでない、2015年9月5日(土)~2016年8月4日(木)の間に新入会・復会・会員証再発行申請された方には、9月中旬より順次お手元にお届けいたします。

会場の参加受付機に会員証をかざすと、氏名(漢字・ローマ字)、所属などが参加証に印字・発行されます。印字内容は9月19日(月)時点でお届けの情報に基づきます。変更は会員ページ(<https://jats.members-web.com/my/login/login.html>)よりお早めにお済ませください。なお、会員証・参加証ともに外字(PC環境で上手く表示されない文字)は置き換えて印字されます。何卒ご了承ください。会場では再発行の申請は受付いたしません。下記で確認の上、別途申請願います。

各種申請	① 手続	② 手数料納入	③ 会員証発行
新入会・復会	不要	不要	不要
紛失・破損・汚損	再発行の理由を記載し、会員ページ専用窓口(jats-manager@umin.net)まで申請 破損・汚損した会員証は自身で処分	①に続き、再発行料¥3,000(税込)を納入 口座: みずほ銀行飯田橋支店 普通預金2288186 名義: 特定非営利活動法人日本胸部外科学会 トクヒニホンキョウブゲカガクカイ ※振込人名を必ず入力	8月4日(木)までの受付分は9月中旬順次発送 5日(金)以降の受付分は2017年秋に発送
改姓・改名	新旧の姓名を併記した書面と既存の会員証を同封し事務局へ郵送	不要	
退会	退会の旨、会員ページ専用窓口(jats-manager@umin.net)に申請		会員証は自身で処分

お知らせ

限定 300本

日本胸部外科学会
オリジナルネクタイ販売

JATSオリジナルネクタイは、25年前、第43回末代会長がお作りになりましたが、第68回大北会長がデザインを刷新し作成されました。



この度、限定300本を販売いたします。
深みのある紺地に赤・緑・黄のストライプと心・肺・食をイメージしたロゴマークが施されたデザインとなっております。
会員の皆様、学術集会参加の際などに是非お一ついかがでしょうか!

なお、学術集会会場(岡山)でも販売いたします。

ご購入手続き 1本...¥3,600 (ネクタイ...¥3,240(税込)+レターパック...¥360)

振込額: 1本 ¥3,600 (ネクタイ...¥3,240(税込)+レターパック...¥360)

Step1 代金のお振込み
口座: みずほ銀行 飯田橋支店
普通預金 2288186
名義: 特定非営利活動法人日本胸部外科学会
トクヒニホンキョウブゲカガクカイ
※振込人名を必ず入力

Step2 事務局へメール
宛先: jats-adm@umin.ac.jp (ネクタイ販売窓口)
件名: JATSネクタイ購入希望・入金完了
本文: 会員番号 T
氏名 ※必ず明記
発送先 ※学会登録の住所以外に送付する場合のみ記載

発送は『代金のお振込み』と『事務局へのメール』が共に確認できてからになります。

追悼

(日付は逝去日)

2015年7月18日~2016年7月25日までに届け出をいただいた逝去者一覧: 27名

中橋 正明	2013/6/27	鈴木 隆太	2015/7/21	野尻 知里	2015/11/13	加藤 拓見	2016/3/14
小林 芳夫	2014/7/1	高 英成	2015/7/26	高倉 信孝	2015/11/21	藤原 靖之	2016/3/22
和氣 一夫	2015/2/7	Kay JH	2015/8/14	田中 勸	2015/12/6	安喰 弘	2016/4/13
妹尾 嘉昌	2015/4/16	徳島 武	2015/9/2	岡本 信洋	2015/12/30	宮内 好正	2016/4/30
野垣 晴彦	2015/6/27	近藤 宣雄	2015/9/4	六角 丘	2016/2/2	藤村 重文	2016/5/28
鶴養 恭介	2015/7/1	麻野 博智	2015/9/9	坪井 榮孝	2016/2/9	森 昌造	2016/6/15
磯辺 真	2015/7/14	曾根 康之	2015/10/13	塚田 一博	2016/3/1		

編集後記

皆さんこんにちは、治安や予算不足で開催が懸念された地球の裏側リオ五輪が閉幕しました。体操、柔道、水泳、レスリング、テニス、バドミントンなどの多くの種目で日本選手がメダルを獲得、日本中が沸き、眠れぬ夜を過ごしました。9月7日からパラリンピックも開幕します。新都知事の元で、4年後の2020年、56年ぶりに東京で開催されるオリンピックの準備がスタートします。

NEWS LETTER "JUST NOW JATS" No.36の特集は9月28日(水)から岡山駅前の岡山コンベンションセンターを主会場として開催される第69回日本胸部外科学会定期学術集会に関する記事です。テーマは「温故創新- Innovation & Improvement」、会長の三好新一郎 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 呼吸器・乳腺内分泌外科教授に本学術集会の見どころを解説していただきました。

学術集会の1日目午前、チーム医療推進委員会の特別企画『胸部外科領域におけるチー

ム医療の近未来』が開催され、医師と看護師のスキルミックスの分野でフロントランナーとしてリードされてきた矢崎義雄 国際医療福祉大学総長に基調講演をいただき、3人の診療看護師に現場の現状を語っていただきました。

本年も会員証を用いて学術集会参加証の発行を行いますので、必ず会場にご持参ください。また、会員情報の変更は9月19日までにお済ませください。

新教授の紹介は京都府立医科大学呼吸器外科学の井上匡美先生、施設便りは公益財団法人心臓血管研究所附属病院を関雅浩先生にご紹介いただきました。

昨年7月から、鬼籍に入られた先生方は森昌造先生やわが同門の麻野博智先生をはじめ27名です。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

最後に、会員の皆様にはGTCSのIF獲得にご協力をよろしく願いたします。

広報委員会副委員長 徳島大学大学院胸部内分分泌腫瘍外科学分野 丹黒 章

日本胸部外科学会 NEWSLETTER

JUST NOW JATS

No.36
2016年9月10日発行

発行◎特定非営利活動法人 日本胸部外科学会
〒112-0004 東京都文京区後楽 2-3-27 テラル後楽ビル 1F
TEL◎03-3812-4253 FAX◎03-3816-4560
URL◎http://www.jpats.org/

編集◎日本胸部外科学会 広報委員会
E-mail◎jats-adm@umin.ac.jp

デザイン・制作◎株式会社 杏林舎